

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045 (661) 0166

年頭挨拶

横浜市仏教連合会会長 柳下隆侃

一九八五年、昭和六十年乙丑の希望新たに輝かしき新春を迎え、謹んで横浜市仏教連合会傘下諸大徳各位のご多幸と、世界平和、国家繁栄のもとに、万民豊樂を祈念申し上げます。

大日経に
 仏心とは大慈 大悲是れなり
 大悲は楽を与え
 大悲は苦を抜く
 と教えられ、弘法大師は般若心経秘鍵の中に
 夫れ仏法遙かに非らず
 心中にして即ち近し
 真如外かに非ず
 身を棄てて何んが求めん
 迷悟吾れに在れば
 則ち発心すれば即ち到る
 明暗他に非ざれば
 則ち信修すれば忽に證すと説かれておられます。

終戦後三十年を迎え、当時の飢餓を忘れ、吾々国民が過去に味つたことのない平和と繁榮の幸福を満喫していただけることは、何と有難い事ではありませんか。
 アフリカや東南アジアに於て飢渴に喘ぐ多くの方々、榮養失調で腹ばかり膨れあがって、瘦せさらばえている子供達の姿、更に憎悪と欲望の為の鬭争のまきぞえを受けている難民の姿等をテレビ、新聞等で見るにつけ心の痛むものが

あります。
 この時にあたり神奈川県仏教育



年会の諸師が昨年も、鎌倉光明寺川崎大師等の境内をはじめ、横浜市伊勢佐木町などの繁華街を順次計画的に声をからして托鉢勸募をし救済活動に尽力されておられます。この大慈大悲の仏作仏業に花を咲かせるべく、更に有徳のご住職及び寺院婦人達のご声援と、暖か

いご協力をお願い申し上げます。次いで昨年度も上大岡の県慰霊堂月並み慰霊祭には、各区仏教会によるご回向、ご法話を頂き、他の宗教では味わうことの出来ぬ感涙を流し、感謝の言葉を遺族の方々より伝えられておりますことを申し上げます。

次に横浜市仏教連合会の協力団体である横浜市積尊奉讃会も昨年は皇居参観や、川崎大師参拝等の行事が大成功のもとに実施せられその充実と発展に向かってい事を祝福すると共に、宇野会長以下役員各位の努力に感謝し、併て諸大徳各位のご協力を重ねて御礼申し上げます。

本年度は来る二月十一日の神奈川県青木橋の本覚寺を会場とする積尊涅槃会の法要をはじめとする諸行事や、各種問題の処理等に役員一同と共に一層の努力を致す所存であります。

最後に皆様方の一挙手、一投足の仏作仏業を以て、檀信徒の教化と共に仏教会の活動に暖かいご協力をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

仏跡参拝旅行

横浜市仏教連合会では、積尊奉讃会と手と手をとり合って昨年につづいて春の仏跡参拝旅行をただ今計画しております。

予定として日帰り旅行にしたいと思っております。詳細な事につきましては後日各区の仏教会長さんを通してご連絡申し上げますが、その節には何分ご協力をたまわれますようお願い申し上げます。

市仏連といたしましては、こうして横浜に住を持つものが正しい信仰のもと仏跡をたずねお詣りをして親睦を深めてゆくことは実にすばらしく大きな和合体ができる

と確信しております。今はあらゆる団体で旅行を催しておりますが何といたっても仏さまをお詣りして歩く旅行は心に残るものがあります。どちらの尊台も日夜布教伝導活動に努力されておられることと存じますが、一人の力より二人の力、そして横浜市全員の僧侶が力を合やすことにより、より大きな和合体ができると思っております。

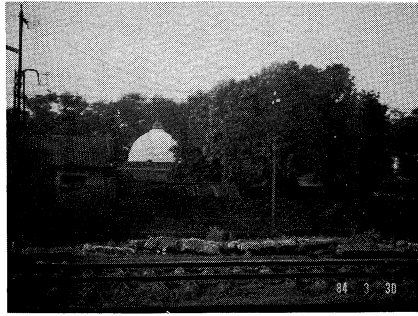
第十回涅槃会要綱

- 一、日時 昭和六十年二月十一日(月・先負)
 - 一、場所 青木山・本覚寺 神奈川区高島台一ノ二
 - 一、交通 京浜急行「神奈川駅」下車徒歩二分
 - 一、講演 「橘家圓蔵」
 - 一、会費 無料・御香資は受け取ります。
 - ◎ 随喜御寺院は必ず黒略衣着用のこと。
 - ◎ 檀信徒の御同行をお願いします。
- 電話 〇四五(三三二)〇一九一

インド仏跡参拝の思い出

副会長 佐藤泰心

明けましてお目出度うございます
昭和の御代も歴代陛下の御在職
中、最長の年月を経まして本年六
十年となり三ヶ月も穏やかなよい
お天気でよき新年を迎え此の上も
ありません。私は昨年始めて印度
に参りカルカッタから全部列車で



各地の佛跡をお参り致しまして五
ヶ所の佛跡を同じ列車で廻ったわ
けですが、列車の方は私達が列車
から降りてお参りして来るまでそ
の間待っていてくれるんです。日
本内地では全然考えられない毎日
でした。中でも靈鷲山に参りまし
て、鷲のみ山の形を見、教主釈尊
のお姿を想うたのは最尊最高の喜
びでした。釈尊誕生の地ルンビ
ニーでの町の様子は何とも心のい
たむ有様で、七つ八つの店と云う
より、ポロを敷いて煙草三、四種
類、又他の店では四、五種類の菓

仏跡参拝の旅

副会長 森山正城

十一月二十六日神奈川県仏教会
主催による秋の仏跡行脚に参加し
ました。
横浜駅西口前を出発してから途
中、厚木で第二の参加者に乗せ、
相模湖をへて山梨県に向いました
左に南アルプス連峰を右には八ツ
岳を眺めながら長野県の諏訪市へ
と入り、第一番目に諏訪市の山腹
にある臨済宗、法華禅寺を参拝し
ました。法華禅寺はもと延暦寺
の開祖伝教大師による、天台宗で
あったが、盛重の招きで建長寺開
山、蘭溪道隆禅師が住職したこと
から臨済宗となった寺です。次に
市内に入り、北沢美術館でアー
ル・ヌーヴォー(新しい芸術)と
云う素晴らしいガラス工芸品を見
てきました。

宿泊は湖畔沿いにあるレイク、
サイド、ホテルに泊り、晚餐の宴



はにぎやかに楽しく過してまいり
ました。
翌朝は高島城(諏訪藩主)を見
てから甲府にもどり県立美術館で
ミレーの落穂ひろい等の有名な絵
を見学して、大仙寺へと廻りまし
た。大仙寺は武田信虎の墓のある
寺。

続いて、武田家の菩提寺又快川
国師で有名な臨済宗、妙心寺派、惠
林寺に行き、更に、大菩薩峠の入
口にある、同じ臨済宗妙心寺派の
雲峰寺まで登りました。十一面観
音菩薩を参拝して、心身清浄の境
にしたって旅を楽しんできました。
甲斐の旅を終って感じた事は
当時戦国の世とはいえ、全盛と悲
惨とがたえずくり返されてきた事
そんな、うつり変りの様子が目に
見えてきます。
戦国の武士、武田信虎が興起し

北沢美術館

エミール・ガレの作品中、最も
感動的なものが特別展示室に収め
られている。
ひとよ茸ランプは五層のガラス
を重ね微妙な彫りを加えた傘の部



て信玄の代で絶頂に登り次に勝頼
信勝の父子が織田信長に滅ぼされ
てゆく武田三代記は戦国の縮図と
云えるものである。
惠林寺の快川和尚も信長の兵に
よって山門上で有名な遺傷をのこ
して焼死しているが、慌々しい乱
世その影に多くの婦女子も悲惨な
最後を遂げていったのではないかと
想像出来る。

話は一変するが今日の日本の
平和は云うまでもないが、ベトナム、
カンボジア、タイ、イランと
イラク等世界中多くの処で殺し合
いをしていくが、本当に気の毒な
事と思う。事情はあるだろうが、
それぞれの国の指導者達、戦火を
やめてほしい。平和な世界で皆共
に共存出来ると思う。指導者よ自
覚せよ。



頌 春

祈 高 堂 万 福

横浜市仏教連合会会長

観音寺住職

柳 下 隆 侃

港北区篠原町二七七七
電話 四三一―一四三四

横浜市積尊奉賛会会長

宇 野 忠 夫

金沢区金沢町一
電話 七〇一―九三八三

横浜市仏教連合会副会長
中区仏教会長

大円寺住職

佐 藤 泰 心

中区大平町九四
電話 二二三―電六四一―四九三三

横浜市仏教連合会副会長

福聚寺住職

森 山 正 城

保土ヶ谷区岩井町五六
電話 七五―五五九四

横浜市仏教連合会専務理事

長昌寺副住職

立 野 孝 善

旭区さちが丘五九
電話 三九一―一三七九

横浜市仏教連合会会計

弘聖寺住職

内 野 公 雄

緑区台村五四九
電話 九三二―二五一二

保土ヶ谷旭区仏教会長

真福寺住職

安 井 覚 明

保土ヶ谷区和田二―八―三
電話 三三二―四六七一

港北区仏教会長

龍松寺住職

近 藤 憲 雄

港北区太尾町一〇二三
電話 五三一―六〇三〇

戸塚区仏教会副会長

中田寺住職

香 川 隆 善

戸塚区中田町二〇五四
電話 八〇二―一四一五

西区仏教会会長

墓地専門委員会委員長

久成寺住職

佐 藤 壽 応

西区平沼一―二〇―二六
電話 三二一―七六七六

横浜市仏教連合会監事

正泉寺住職

野 沢 隆 幸

鶴見区生麦四―三一―四
電話 五二―五二七五

<p>横浜市仏教連合会顧問 昇天山金龍禪院 住職 志村 慎吾 金沢区六浦町四四一二 〒二三六 電七〇一八八三三</p>	<p>横浜市仏教連合会参与 新善光寺住職 福 永 隆 昭 南区三春台一三三 〒二三二 電三三一五七五四</p>	<p>横浜市仏教連合会参与 西有寺住職 横 山 敏 明 中区大平町九六 〒二三一 電六六一〇一六六</p>	<p>金沢区仏教会</p>
<p>戸塚区仏教会会長 雲林寺住職 北 見 定 賢 〒244 戸塚区矢部町七八八 電話 八六一一三二四</p>	<p>本覚寺住職 守 長 尚 文 神奈川区高島台一二二 電話 三三二一〇一九一</p>	<p>横浜市仏教連合会監事 玉泉寺住職 吉 本 十 三 南区中村町一六一一 電話 二五一七二九八</p>	<p>(株)東海ビーエス観光 神奈川営業所長 真 川 明 南区西中町一八九 電話 二四一七四三四</p>
<p>南・港南区仏教会副会長 常清寺住職 片 山 宣 英 南区清水ヶ丘二三一 電話 二三一八六六二</p>	<p>横浜市積尊奉賛会事務局長 東林寺住職 瀧 田 東 潤 港北区篠原町一二五二 電話 四二一〇三三二</p>	<p>横浜市積尊奉賛会 事務局次長 藤 江 馨 山 保土ヶ谷区岩井町三二二 〒240 電話 七三一七九六</p>	<p>横浜市積尊奉賛会 会計 東照寺住職 程 木 徳 明 港北区綱島西一の十三の十五 〒223 電話 五三一七七八三</p>

支部だより

西区仏教会

新年会及び臨時総会 一月
臨時総会をかねて新年会を開き
決意と親睦を新たにしました。
花まつり 四月

今年は田満寺新霊殿を会場に、
稚児多数参加し、区内寺院総出仕
のもと、柳下市仏連会会長の祝辞を
頂戴し、利正寺保育園児のお遊戯
あり、盛会だった。

総会及び税務研修会 六月
定例総会のと、中税務署係官
二人を招いて行った研修会は、時
節柄出席者全員真剣に聞き、活発
な質疑があり非常に有意義だった
ルンビニー園復興資金
の募金 八月

各寺院教会に趣意書を配布して
ご協力をお願いした処、幸に皆さ
んのご賛同を得て三〇万円集り、
早速県仏教会事務局に納入した。
遷化会員追悼法要 十月

区内の会員で亡くなられた方々
に対し、会員多数で追悼法要を行
い、感謝報恩の意を表した。
歳末助け合い募金 十二月
毎年区内全寺院に募金箱を置い
てもらい、助け合いに協力して頂
き、おかげで四〇万円集り、区内
の各施設及び全国共同募金会に寄
付した。

港北仏教会

市仏教会のご活躍にお礼申し上げ

げます。市仏連会報により、各区
仏教会の活躍もよくわかり、当区
仏も時代の要請に応じた動きが必
要だと考えていますが、まだ意の
如くにはまいりません。税務につ
きましては各区同様税務署、税
理士先生のご指導により意識の向
上と実務の実践に努力をにつけて
おります。この税務の研修会が区
仏のまとまりと親和に大きなプラ
スとなっていることは事実です。

今年度は新年会を催し、六十年行
事の前進を計る所存です。五十九
年度は区仏行事として特記すべき
ことはなく、市仏連、市積尊奉讚
会行事に同調することからスター
トしています。これからもまず市
仏行事へのとりくみから進め、こ
れに区仏行事のいくつかを加えた
いと存じます。夢は花まつり、灯
籠流し、区仏慰霊祭といったこ
ろです。そしてここに五十九年に
遷化されました当区仏会員、正福
寺福岡文良師(天台宗)、本乗寺
從野澄勇師(日蓮宗) 正覚院山岸
健明師(曹洞宗) のご冥福を祈り
謹んでお知らせいたします。

七月一日 仏教会機関紙「慈
光」発行
七月七日 於宝珠院、齊藤隆法
先生と一対一の対話方式により、
税務研修会を行なう
九月八日 於龍幸寺、金沢区仏
教文化講演会を開催、講師、仏教
学者花山勝友先生及び俳優、多々
良純氏、区内檀信徒百五十名参集
し盛会裡に終る

金沢区仏教会

九月十五日 区仏臨時総会、交通
安全祈願法要の協議
十月十三日 於称名寺、区内交通
事故物故者追悼法要及び交通安全
大般若経転統祈願法要を厳修、つ
づいて、金沢区積尊奉讚会総会を
開催
十一月二十四日 於金蔵院、区
佛理事会開催、昭和五十九年度下
半期事業計画を協議す
十二月二十日 機関紙「慈光」
新年号発行

昭和五十九年度行事計画の通り
一、花まつり 四月八日妙秀寺
にて
二、戦没者慰霊祭 五月十七日
区役所慰霊塔前にて
三、盆流灯会 八月十六日枸尾
川にて
それぞれ実施し、相当の成果を上
げたものと思う。
尚、仏教会研修旅行。五月二十
九日長野県善光寺参拝を始め、前
山寺その他見学研修。十二月十一
日は、新装になった伊豆宇佐美観
音寺を視察見学し、地形を利用し
た数棟の、その堂宇の絢爛華麗な
るに眼を見張り、本体たる観音像
は勿論、七福神、亦千体に余る水
子地蔵の併立に驚嘆した。当日は
あいにく小雨降る悪天候ではあつ
たが、老若男女の参詣ひきも切ら
ず、難しい仏教々理より、一見理
解し易い現世利益の法が、如何に
庶民に受け入れられるかを身を以
て体験した。
二月には世人注目の的たる、宗

戸塚区仏教会

教法人の税務について研修会を催
し、万遺漏なきを期し度い。
当戸塚区六十七ヶ寺に余る寺も
近々分区分問題も具体化し、三分割
され、それぞれ統制も採り易くな
り、団結も強固となり、活動も活
発になることと期待している。

磯仏59年度行事実施情況

一、無尽例会 会所は会員寺院もち
巡りにて毎月実施し連絡懇談
三、理事會 4月23日峰町護念寺に
於て、第一回理事會を開催。
59年度事業案続いて総会承認
三、県市仏行事に協力 特に6月21
日、市仏積尊奉賛會が主催の
皇居参観、仏跡巡拝は盛会で
当会参加者47名。
四、法人税源泉の申告 6月と12月
に加藤会計士を依頼して申告
当会では税務所立入検査が四
ヶ寺、更に厳しくなる模様。
五、歳末助け合い托鉢 12月6日に
洋光台駅前で実施。会員の拠
出金七万円、募金五一、八九
五円、計一二一、八九五円を
神奈川新聞社を通して寄託。
六、忘年会 12月20日関内福久にて
懇談会。出席十五名。
七、積尊奉賛會 入会のすすめと、
會費納入のお願い。
八、60年1月13月の予定。

保土ヶ谷・旭区仏教会

役員會
○八月五日 於真福寺三役會

○十月六日 於真福寺三役會
県慰霊堂奉仕
○十一月五日 県戦没者慰霊堂の
月例法要に香象院、長見寺、宝蔵
寺、真福寺の四ヶ寺出仕、桜紅葉
が秋空に映える日、会長真福寺安
井覚明師の三分に亘る法話に参
列者感銘する。
税務懇談會
○十一月五日 慰霊堂奉仕の後真
福寺に於いて開催。オブザーバー
として既に税務調査のあった数ヶ
寺住職の体験談を聞く。大楚治夫
税理士の助言もあつて極めて有意
義であつた。



秋の仏跡参拝

○期日十一月二十日(火) 行先は
奥山の方広寺(臨濟宗方広寺派大
本山)と竜潭寺(臨濟宗妙心寺
派)の二ヶ寺で、参加者はバス七
台三百二十余名であつた。珍しく
雨の出発であつたが着く頃には回
復、竜潭寺の名園に見とれ方広寺

